

事業の名称	緋の道青の道 植物染料でつなぐ伝統文化復活の旅
名称	一般社団法人日本茜伝承プロジェクト
団体の活動状況 (実績があれば箇条書きで記入して下さい)	<p>2019年日本茜生産者と芸業者で「日本茜伝承プロジェクトチーム」を結成 2020年3月「日本茜伝承と未来展」2021年3月「植物の力 日本茜と山藍展」日本芸術文化振興財団助成により糸目本友禪を復元、記録したユーチューブは4.3万回再生。2022年3月「幻の色 日本茜 技と彩り」 2023年日本芸術文化振興財団助成により、文楽町娘の衣裳を江戸時代様式で復元。 2023年3月「藍と茜」展示会、この時はじめて公募コーナーを設け、全国の染織作家と交流を図る。 2023年京都府立北桑田高校美山分校農業科と協力、日本茜の苗づくりに取り組む。 2023年7月千葉県立成田西陵高校と農業、商品開発で協力 2023年7月任意団体から法人化、一般社団法人日本茜伝承プロジェクト を設立 2023年 鎧廼舎 の鎧師 明珍阿古氏の協力により 平安朝様式の稚児鎧を製作 観光庁「インバウンドの地方誘客のためのコンテンツ造成事業」で「YOROIとBUNRAKU 復活した古代染料日本茜を藍を使った伝統工芸堪能ツアー」実施</p>
プランの骨子 (箇条書きで記入して下さい)	<p>緋の道 日本茜は大嘗祭などの宮中行事に欠かせない染料です。かつては日本全国に自生していましたが、今では幻の古代染料と言われています。南丹市美山町で栽培に成功し、伝統工芸の人々と協力染色方法を解明しています。</p> <p>青の道 京都駅の東側はかつて一面の藍畑でした。水田でつくり「京の水藍」と呼ばれていました。それを復活させたのが亀岡にある「京都ほづ藍工房」です。</p> <p>本事業は<育てる><出会う><学ぶ>の3つのカテゴリーに分かれます。</p> <p><育てる・畑部>美山町に藍や日本茜の畑をつくります。作物を育て顔料づくりなどの新商品の開発をします。年度の終わりには参加者をズームでつなぎ、新たな提案をまとめ、出来た作品を知恩院和順会館で展示します。畑部で作った顔料で伝統工芸士の協力の下、型染や友禪の着物を製作発表します。</p> <p><出会う 鎧と文楽>本物のよいもの美しいものに触れる機会を伝統工芸の方達とつくります。美しさで敵を圧倒したという平安朝の鎧を学び、鎧を纏って世界遺産の上賀茂神社で鎧着初め式に参加します。絵画的な京絞りの歴史を学び、衣装復元の物語を聞くとともに、復元衣装での文楽公演を鑑賞します。高速道路を使い作家さんの工房を訪ねます。海老ヶ瀬順子氏(こめ織り 綾部)上原晴子氏(紬 京都市)赤坂武敏氏(型染 京北)服部綴工房 帯屋捨松 誉勤商店など江戸時代から続く京の老舗をたずね訪ね文化を学びます。</p> <p><学ぶ・ロングステイで技術を学ぶ> 2年間の実践を基礎に、植物顔料を使った、型染め、友禪、京絞り、紬などの技術を10日から2週間のロングステイ学べるコースをつくり3年目に募集します。</p>
事業活動地域(地図等で具体的に表示)	
京都市、南丹市、亀岡市、綾部市、京丹波町など、京都縦貫道周辺	
<p>沓掛IC (京都市) 服部綴工房 帯屋捨松、誉勤商店 鎧廼舎 上賀茂神社鎧着初め式参加 上原晴子(紬) 山本晃(友禪) 片山伸吾氏(能衣装)</p> <p>亀岡IC (亀岡市) 塩野屋(真綿、糸紡ぎ体験) 京都ほづ藍工房</p> <p>園部IC (南丹市) 京都府立ゼミナールハウス 文楽公演(美山) 美山町 畑部、日本茜 赤坂武敏(型染) 京都伝統工芸大学校 木戸源生(友禪)</p> <p>京丹波わちIC (京丹波町) 文楽</p> <p>綾部安国寺IC (綾部市) 海老ヶ瀬順子(こめ織り)</p>	<p>京都縦貫自動車道</p>